JAC北九だより

Ｎo．６２（平成２４年　第４号）

公益社団法人　日本山岳会　北九州支部

kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発 行:公益社団法人 日本山岳会北九州支部
支部長　伊藤久次郎
事務局: 福岡市早良区昭代 3-9-5-502
山田武史方
TEL-FAX 自宅　092-844-3563
携帯　090-6422-5662
編集人: 竹本正幸
印 刷 : 山口県山口市水の上町2-25
内 藤 製 本 所

マナスル特集

「マナスルに立つ」上映会

平成24年8月22日（水）（14時から17時）毎日西部会館にて

毎日西部会館にて上映会

毎日新聞　2012年8月10日

マナスルに初登頂した日本山岳会隊
＝1956年５月９日撮影

記録映画「マナスルに立つ」　22日に上映会

56年前の偉業　感動再び

56年前にヒマラヤの8000㍍峰・マナスルの世界初登頂に成功した日本山岳会隊の記録映画「マナスルに立つ」の上映会が22日午後3時半から、小倉北区紺屋町の毎日西部会館9階ホールである。日本山岳会北九州支部（伊藤久次郎支部長）主催。

世界8位のマナスル（標高8163㍍）の初登頂は56年5月。アジア初の8000㍍峰登頂で、敗戦から立ち直ろうとしている国民に自信と感動をもたらした。毎日新聞は当時、登山隊を同行取材するなど全面支援し、56年5月18日付の朝刊1面で「巨峰マナスル登頂ついに成功」と大きく報じた。

初登頂の年に公開された「マナスルに立つ」（監督・山本嘉次郎、ナレーション・森繁久弥、カラー102分）の上映は、日本山岳会など山岳5団体が提案している、国民の祝日「山の日」制定運動の一環。伊藤支部長は「日本人が残した輝かしい記録を、貴重な映像でぜひ見てほしい」と来場を呼びかけている。

参加費500円。20日までに申し込みが必要。申し込み、問い合わせは同支部事務局092・844・3563。【内田久光】

ヒマラヤのマナスル(標高8163㍍)に56年前、初登頂した日本山岳会隊の記録映画が８月22日小倉北区の毎日西部会館で開催され、64人が鑑賞しました。

この上映会は、北九州支部が「山の日」制定運動の一環として、また新入会員の募集を目的に開催しました。参加者には「山の日」制定のパンフレットと昭和31(1956)年５月18日の偉業を伝える毎日新聞一面のコピーを配布しました。

伊藤支部長の「山の日」制定運動の説明と「マナスルについての説明」に始まり約１時間半の上映に皆さん興味深く鑑賞しておられました。山本嘉次郎監督の作品で、語り手は俳優の森繁久弥さん。国内の準備段階から登頂まで克明に写しだしていました。

当時のキスリングや登攀用具を懐かしく思う人、装備の現在との違いに驚く人など様々でした。毎日新聞のインタビューに木原充さんは「今の装備とずいぶん違っていてよく登れたなと思う。多くの方の協力があってこそ成しえた大事業だと思う」と答えています。

上映終了後、山田事務局長より「会員募集の案内」をして上映会を終了しました。　　（竹本正幸）

マナスルと槇有恒さん

第４、第７代日本山岳会会長歴任

マナスル　Manaslu （地名）

1971年発行の世界山岳百科事典より

ネパール･ヒマラヤに属し、世界第７位の高峰。標高8156㍍。ネパール･ヒマラヤのほぼ中央部に位置する。1950年イギリスの登山家、Ｈ・Ｗ・ティルマンが西面を偵察したのが最初。

本格的な登山は1952（昭和27年）から日本山岳会によってはじめられた。同年秋、今西錦司他4名の踏査隊が東面に登頂可能なルートを発見。翌年春、三田幸夫他14名の第一次登山隊は7350㍍の地点に達し下山。翌年春、堀田弥一以下13名の第二次隊は登頂をめざしたが、山麓のサマ部落民の妨害によりベース･キャンプに達することができず帰国。翌年春、秋に関係者を現地に派遣、ネパール政府および現地と交渉。

さらに56年（昭和31年）春、槇有恒ほか12名の第三次隊が出発。同年5月9日、今西寿雄、ギャルツェン・ノルブが、続いて5月11日、加藤喜一郎、日下田 實がそれぞれ初登頂に成功した。

〈日下田　實〉

槇　有恒（まき・ありつね）

1894～1989(平成元年)。仙台市出身。大正6年慶応大学法律学科卒。1918～21（大正７～10）にアメリカ・コロンビア大学、イギリス、スイスに留学。明治39年富士登山、42年羊蹄山、43年阿蘇山、45年白馬岳、大正3年上高地～前穂高、針ノ木越え、立山、劔岳登山。大正５年夏前穂高、奥穂高、槍ケ岳、薬師縦走。

ロンドンでウェストンに会い、そのすすめでスイスに渡り、グリンデルワルトを中心に1920年（大正9年）夏ウェッターホルン、メンヒからアイガー縦走。1921年夏モンテ･ローザの最高峰デュフール・シュビッツエ、マッターホルン登頂、同年9月アイガー東山稜初登攀に成功し大きな反響をよんだ。同年末帰国。日本へ初めて本格的なアルプスにおける登山技術を実地に紹介した。

大正11年３月槍ケ岳積雪期初登頂。同年８月穂高岳涸沢の岩小屋生活をおくる。1925年（大正14年）夏カナディアン・ロッキーズのアルバータに隊長として慶大、学習院大のメンバーと遠征、全員登頂に成功。これは日本最初の海外登山隊であった。同年夏秩父宮殿下に同行しウェッターホルン、フィンスターアールホルン、グロースシュレックホルン、マッターホルン、モンテ･ローザなど登攀。

日本山岳会事業委員会登山隊の写真

昭和19年から21年まで木暮理太郎死去のあと第4代日本山岳会会長。昭和26年から30年まで７代目会長。1956年(昭和31年)第三次マナスル隊隊長として初登頂に成功。文化功労者に選ばれる。

昭和25年4月日本山岳会名誉会員。著書『山行』『ピッケルの思い出』『マナスル登頂記』『わたしの山旅』などがある。　〈山崎安治〉

マナスル登頂記（図書）

槇有恒編、昭和31年、毎日新聞社発行。1956年(昭和31年)その登頂に成功した第三次マナスル登山隊の記録で、毎日新聞社に寄せた現地からの報告を主に編集したもの。モノクロ写真多数。巻頭から登頂する場面が描かれてあり、全体に一般読者を対象に書かれている。井上靖の『氷壁』とともに戦後の登山ブームに本書が及ぼした影響は大きい。

〈阿部恒夫〉

＝思い出の１枚＝

No.14852　竹本 正幸

1971年６月５日～６日西穂高岳から縦走したときに、上高地河童橋前でウエストン祭に参加されていた槇有恒さんと小西政継さんにお会いでき、その時撮影した１枚です。

槇有恒さんと小西政継さん

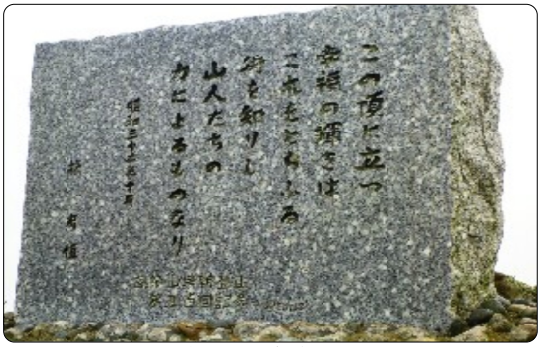
風師山に槇 有恒の記念碑

No.13643　関口興洋

槇 有恒は、昭和31年のマナスル登頂の後、翌年の32年、登頂報告のため九州各地を訪問された。その折、訪問先で墨跡を残されているが、私の知る範囲では九重観光ホテル(旧牧ノ戸小屋)、法華院温泉山荘に展示されている。そのほか、北九州市門司区にある風師山の風頭（364m）に立派な記念碑が建立されていることは地元以外にあまり知られていない。実は、先年、松田雄一名誉会員からの要請でこの記念碑建立の経緯をご報告したことがある。その際、ご子息の槇 恒治氏もご存じなかったとのことであった。

32年10月、槇 有恒が門司に来訪された折に、風師山早朝登山会の堤 甚五郎会長が関門海峡の素晴らしい展望台である風頭にご案内した。ここは宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘で有名な巌流島(正式には舟島、今年は400周年の節目にあたる)を真下に見下ろす眺望絶景の場所である。槇 有恒がしたためた内容は右のとおり。

この文を基に堤 甚五郎が記念碑を建立した。その後、風化のため昭和51年４月に再建された。堤 甚五郎はＪＡＣ会員(4162)で平成15年12月の年次晩餐会で永年会員の顕彰を受けられることが決定していたが、残念ながら直前の11月21日に急逝された。なお、平成20年10月、小倉で全国支部懇談会が北九州支部主管で開催されたが、記念行事の中にこの記念碑見学を含む関門海峡ツアーが設営された。



槇有恒の記念碑

この頂きに立つ
　幸福の輝きは
　　これをとらふる
術を知りし
　山人たちの
　　力によるものなり

昭和三十二年十月
槇　有 恒

６月12日（火）・14日（木）

幼稚園児 風師山（かざしやま）（362.2メートル）登山

門司区「さいわい幼稚園」遠足支援

No.13465　大 楠　益 弘

＜いきさつ＞

さる３月９日、門司区役所総務企画課を通して、門司区老松町の「さいわい幼稚園」の風師山遠足を支援してほしいとの依頼があった。翌10日担当の副園長に会った。従来は、園長先生が引率して、毎年山に登っていたが、体調が思わしくなくなり、ここ４～５年は実施していない。

自然になじむという意味でも有意義でまた好評でもあったので復活してほしいとの声があり、今年はぜひ実施したいので、協力願えないかということであった。

紫陽花の中を行く

早速支部役員会にはかったところゴーサインが出たので近隣の山岳団体にも働きかけ実施することとなった。６月12日年長組、６月14日年少組、に分けて実施することになった。

遠足

関門海峡の眺めに
　大喜びの園児たち
No.14264　丹下 洽
No.14554　丹下 香代子

６月12日門司区の「さいわい幼稚園」の要請により、園児の風師山登山をサポートすることとなった。

事前の資料によると、年長児30人、園の引率者２人、保護者10人をＪＡＣ北九州支部2人、戸の上山登山会3人でエスコートする。

午前10時、園児がマイクロバス、マイカー、徒歩で到着。軽くストレッチ、諸注意を伝達して出発する。

曇っているが、少し風が吹き、

山歩きにはまずまずです。今年は、野イチゴ(草苺)が少なく、ちょっと残念ですが、堤甚五郎さんと風師山早朝登山会が植えた紫陽花が見ごろです。

トイレの心配もなく、風頭岩峰に到着。雲が多く遠くの景色は見えないが、それでも関門海峡の眺めに園児たちは大喜びです。記念写真を撮り、ハチが多いので下山する。

車道終点の展望台で昼食とする。14日の年少組の昼食場所でもあり、周辺の草刈りをしておこうと思う。昼食後、エコ活動として周辺のゴミ拾いをする。マムシ、ヤマカガシや毛虫などがいるので、草むらには入らないように注意する。

午後1時にすべての予定を無事終了し、園児の「アリガトウゴザイマシタ」の感謝の言葉を受け、今日は順調にそして楽しく過ごしました。

山を通じ ふれあいの輪ができた

戸ノ上山登山会　壱岐　勝

平成24年６月14日、快晴　AM９時、風師山駐車場で幼稚園バスを待つ。日本山岳会の丹下夫妻が先にこられ、昼食予定場所の草刈りをされていました。

今日は、年中組、年少組園児の風師山ハイキングのサポートということで、日本山岳会の関口さん、大楠さん、馬場さん、丹下夫妻、風師山早朝登山会の小田さん、戸ノ上山登山会の木村さん、壱岐の共同参加で計８人のサポートです。

AM10時、続々と園児を乗せたマイカー組、幼稚園バスの到着です。皆元気よく、また興奮気味に風師山駐車場に勢ぞろいしました。園児29人、保護者24人、先生５人未就園児１人、それにサポート８人の合計６７人の大所帯です。

副園長による、サポート者の紹介、風師山早朝登山会の小田さんによる、注意事項と簡単なストレッチをしていよいよハイキングスタートです。

風頭岩峰にて記念写真

10時10分、先頭の丹下夫妻、中央部に関口さん、小田さん、後方に大楠さん、木村さん、最後尾に馬場さん、壱岐で園児と親御さんを囲むようにして出発する。

元気に歩き出す３歳児、それをかばうように手を出すお母さん、手を振り切って先に行く子。お母さんに抱っこされて登る子と、さまざまです。でもみなさんおとなしく、行儀よく、自分の幼少時と全然ちがうことに感心する。早朝登山会のメンバーが植樹された紫陽花が満開の中、何事もなく進行。

10時40分、風頭に無事到着。皆ワーという歓声、園児なりの達成感。親御さんの方が大きかったかな・・・。

全員で集合写真を撮ったり、岩すべりをしたりと園児の笑顔、親御さんの笑顔で風頭の展望台がいつも以上に熱く、寄ってくる蜂もビックリという感じでした。

11時風頭をあとにし下山開始。園児も余裕ができたのか、この木は何ですか、ハチはどこに帰るんですか、この実は何ですかと質問攻めにあい‘たじたじ’また毛虫やクモなどに興味を持つ子が多く、手を出す子もいて、またまた昔の自分を見るようでとても懐かしく、貴重な時間を頂いたことで感謝いっぱいです。

11時25分風師山駐車場に到着。展望台で昼食。12時30分サポート終了ということで、園児の「ありがとうございました」の言葉を背に下山。

無事、今回の風師山ハイキングを終えることができたこと、あんなにうれしそうな園児、親御さんの笑顔が見れたこと、山を通じふれあいの輪ができたこと、山っていいですね。

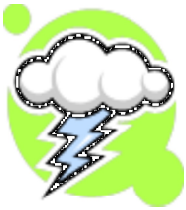
お　礼

さいわい幼稚園より

皆さま方のお力をお借りして無事、楽しい風師山ハイキングを行うことができました。何の関わりもない所からお力をお借りできるなんて思ってもみないことでした。皆さま方に親切にしていただいたことは、山についてだけでなく、人と人との絆をも教えて下さったように思います。園長をはじめ、保護者の皆さま方がとても喜んでいました。心の残る風師山ハイキングが忘れられない思い出になりました。心からお礼申し上げます。

第２回山岳技術専科　７月14日（土）
豪雨警報の中、ザイルワーク実施

北九448　大谷　恵美子



NPO自然愛護会研修室にて

平成24年度第2回目の山岳技術専科が７月14日(土)に皿倉山で行われました。九州北部豪雨の警報が出ている中、定刻には皆さん集合していました。

登山コースは、煌彩の森となり園川講師を先頭に８人(ほか２人はビジターセンターで合流)いつも穏やかなこのコースも長く続く雨のため、あちらこちらで水量が多く、途中でコースを変えながら、運良くレインウエアーを着ることなく皿倉平に到着しました。一息して、ほかの2人とビジターセンターで合流、研修室で早目の昼食を車座になって済ませる。

午後から今回のテーマ（スタンディングアックスビレーを含むザイルワーク）の説明を聞きながらテキスト片手にやってみました。第2回目の私にとっては、かなり苦労しました。

ロープとカラビナを借りて実施しましたが、大カラビナに安全環があることも知りました。部屋の鴨居にロープをかけテキスト2ページの実技です。ハーフクローブヒッチ(イタリアンヒッチ)上下左右に動きがあるロープ結びなど、私も初めての経験です。今回テキストを作ってくださった園川講師ありがとうございます。イラストは、口頭よりわかりやすいです。

帰りは雨のため全員ケーブルで下山する。駅に着いたときは大雨でした。皆さま、お疲れさまです。

講師：園川陽造顧問
参加者：９人
伊藤久次郎、関口興洋、山田武史、原広美、大木康子、竹本加代子、縄手修、森本信子、大谷恵美子

第3回山岳技術専科　8月4日（土）
山岳専科に参加して（シルバーコンパスの活用）

№14916　赤瀬　栄吉

８月４日晴れの日、 園川講師による「シルバコンパスの活用」が皿倉山で開催され男性5人、女性４人計９人が参加、常連さんの顔ぶれのようでした。

帆柱ケーブル山麓駐車場に９時集合、園川講師のあいさつのあと皇彩の森コースをスタートし洞見台広場入り口、ふれあいの家、皿倉の泉のルートで10時20分皿倉平に着きました。途中の休憩時間で園川講師より、次のような話がありました。

・食塩は常に携行し摂取すること。
・食塩水だと0.2ﾊﾟｰｾﾝﾄ(水１ﾘｯﾄﾙに対し塩２ｸﾞﾗﾑ)の濃度にするなど。

ここ皿倉平で教材の皿倉山周辺地図（1：12500）にシルバコンパスを使っての磁北線(西に６度傾))を４ｾﾝﾁ間隔で引く作業をしました。

次のステップは、この地図を使って「現在地を探す」講習であり、展望の利く皿倉山山頂へ移動した。ケーブルカー山頂駅下の日陰で洞海湾、玄界灘一望できる場所に腰を下ろしました。到着が12時前で少し早いが昼食にしました。

現在地はどこだ

昼食後、準備した地図に目標物を２点(花尾町と神山町)決め現在地を探し出す講習に入りました。まず、地図をベンチに整置し作業を始めていると、園川講師より地図の方向をより正確に合わせる方法を教わりました。コンパスの長辺を目元で目標物に真っ直ぐ合わせる。胸元の位置までコンパスを下げリングを回す。(磁針にノースラインを重ねる。)

地図上にコンパスを合わせるときは、コンパスの角を支点としコンパスを回す。（磁北線とノースラインを平行にする）

習った方法で作業を再開し２本の線を引きました。線は皿倉山附近で交差しました。交差したところが現在地でありコンパスの使い方が理解できました。

また、目標物は近くを選ぶこと。遠くにするほど誤差が大きくなる

と言われ、試み実感できました。13時35分講習会を終了、洞海湾をバックに集合写真を撮り、国見岩コースの花(ﾎﾄﾄｷﾞｽ･ﾄﾗﾉｵ･ｵﾐﾅｴｼ)を観賞しながら雑木林の木陰を稲荷神社へと下る。

14時40分帆柱ケーブル山麓駐車場に到着後、次回の参加者を確認し解散しました。

２年前、日本全国4000山踏破「チャレンジ4000」を目指している重廣恒夫（関西支部長）さんと西山～犬鳴山縦走に同行した折、地図を良く見る（読む）ように言われました。本で勉強したりしましたが中途半端のままでした。

今回が２回目の参加であり良く理解することができ有意義な１日となりました。今後の山行で活用し地図を読む力を付けたいと思います。

夏場の暑い中親切丁寧に指導いただきました園川講師、この実習を計画準備された竹本リーダーありがとうございました。次回も参加しますので、よろしくお願いします。

講師：園川陽造 顧問
参加者：９人
伊藤久次郎、関口興洋、山田武史、西村信子、大木康子、竹本正幸、竹本加代子、赤瀬栄吉、森本信子

皿倉山頂上にて

第４回山岳技術専科　９月８日（土）
「ロープやカラビナの取り扱いに自信をもって」

№. 15138 縄手 修

朝夕は、涼しくなってきましたが日中はまだまだ暑い９月８日（土）、第４回山岳技術専科「岩場における救助技術」に参加しました。

帆柱ケーブル山麓駅駐車場に園川講師を含め１３人が集合、ミーティングのあと９時に光彩の森コースから国見岩へ向け出発しました。

国見岩のすこし手前より雨が降り始めました。岩場での訓練は危険だということで本格実技は中止になり、直接「ＮＰＯ自然愛護会研修室」での研修となりました。

研修室に着いてまもなくカミナリと共に雨も激しく降り始め、11時に早めの昼食を取りました。実技は、「下降中ロープがからまり宙吊りになった人を救助に行く」という設定です。

室内でのザイルワーク

シングルロープの場合エイトカンが使えないため、救助者はカラビナ2枚をロープにからませプルージックで制動を掛け事故者まで下降して、事故者をイタリアンヒッチで救助者側へ引き上げメインロープをフリーにして救助する。下降した時、事故者が安全な体勢にあることを確認してピレイを解除しなければいけないとのことでした。

エイトカンがなくても、カラビナとスリングがあれば懸垂下降が出来ることを確認できました。午後3時に研修も終わり、表に出てみると雨はすっかり上がっていました。

雨のため本格実技はできませんでしたが、これからは、ロープやカラビナの扱いに自信をもって持ち歩けるようになりたいと思います。また「無理、無駄のない山行計画」を立て事故を起こさないように心がけたいと思います。

今回も楽しく研修をさせていただき本当にありがとうございました。

次の開催を楽しみにしています。

NPO自然愛護会研修室にて講習

講　師：園川陽三 顧問
参加者：13人
原 広美、伊藤久次郎、西村信子、
関口興洋、山田武史、大木康子、
竹本正幸、竹本加代子、赤瀬榮吉、
森本信子、縄 手修、大谷恵美子

月例山行　７月22日（日）
化石採掘体験と秋吉台の龍護峰登山

No.14264　丹下　洽

石灰石採掘現場にて

伊藤支部長より、学術的な報告書を提出するようにとの指示をいただいた。「さあ、困ったぞ」

この山行計画を目にしたとき、即座に参加を決めた。化石の発掘など願ってもできるものではない。

美祢市化石館で講義を受け、実物の化石を見て化石に目を慣らす。

化石館は、

１．脊椎動物コーナー

大型動物、ナウマン象などの骨格や骨歯の化石。

２．アンモナイトコーナー

キクイシ、地質時代に栄えた動物で、現生のオウムガイの殻と共通したものが多く、
異常な巻き方をしたものもあった。

３．昆虫コーナー

琥珀に閉じ込められた昆虫など、日本最古の化石もあった。

４．大型化石コーナー

ウミユリ、スズリナなど大型の化石に閉じ込められた植物化石があった。

講義のあと、宇部興産㈱提供の車で丸山鉱区へ向かう（一般車両立入禁止）。石灰石採掘現場の広さに驚く。指定された場所で、ヘルメットを着用、ハンマー、タガネを手に猛暑の中、熱中症対策に水を飲みながら、化石を探す。

事前の講義と目を慣らしていたことで、アンモナイト、ウミユリ（棘皮動物）、スズリナ（有孔虫類の紡錘虫で、秋吉台上の石灰岩にも含まれている）、サンゴなどの化石を見ることができた。さらに場所を移動し、シダ類の植物化石を探しに行く。そこは、石炭そっくりであるが、石炭になれなかった地層で、もろく手で割れる。植物の化石とおぼしい化石があった。

宇部興産会議室に戻り昼食をとる。武永サブリーダー差し入れの冷えたスイカに舌鼓を打つ。各自、採取した石を鑑定していただく。採取した石は、一時預けることとする。中には庭石ほどの石も。

さて、これから龍護峰へ登る。秋吉台の最高峰(425.5㍍)です。家族旅行村より遊歩道を歩く。この時期の低山歩きはとにかく暑い。御鉢山(406㍍)到着。

武永サブリーダーが猛暑の中、ストロマトライトの化石を探す。ストロマトライトは、地球上の生命の誕生、生存に必要であった酸素をシアノバクテリアが光合成し、その過程でストロマトライトができる。従って、シアノバクテリアと酸素の存在を証明するのがストロマトライトで、現在でもオーストラリア海岸の一部で見ることができる。

龍護峰で地中に埋もれかかっている三角点を確認し、往路を引き返した。

本日の山行は、武永計介会員の尽力と、宇部興産の協力があってこそ実り多い山行が実現できました。心より感謝を申し上げます。

今日のような企画にも、ぜひ多くの方々の参加を望みます。しかし、暑かった！

石灰石運搬用ダンプトラックに乗って

＜今日出会った野の花々＞

№14554　丹下　香代子

ネムノキ、ネジバナ、マルバハギ、コマツナギ、ヤブラン、ヤマハッカ、ヒオウギ、コオニユリ、オニユリ、カセンソウ・・などなど。

参加者：計16人
伊藤久次郎、武永計介、原 広美、馬場基介、山田武史、日向祥剛、関口興洋、中岡邦男、丹下 洽、大木康子、丹下香代子、縄田正芳、大隈むつ子、倉本とき子、
(ビジター)　中岡 淳、中岡志保

月例山行　7月28日～31日

待望の「花の白山」登山

No.14875　木原　充

以前から登ってみたい山の一つと考えていた白山への登山計画を4月の支部報で知り、すぐに参加を申し込んだ。ただし、今回が支部山行への初参加であるとともに、左足首骨折により、1年余り本格的な登山から遠ざかっているという不安を抱えての申込みであった。

1日目（7月27日・晴れ）

名門大洋フェリーの送迎バスに小倉駅から高畠、大内、木原の3人、門司駅から関口、原、大谷にビジターの松山、佐々木の5人が乗り込み、集合場所の新門司港へ向かった。そしてＪＲに乗り遅れた伊藤支部長も田川からタクシーで駆けつけ、無事参加者9人が新門司港に勢ぞろいした。

新門司港発16時50分大阪南港行きフェリーに乗船後ただちに宴会が始まったが、大部屋でもあるので早めに切り上げて就寝した。

2日目（28日・晴れ）

大阪南港には定刻の5時30分に接岸。地下鉄、ＪＲを乗り継ぎ、「深田久弥山の文化館」がある石川県の大聖寺へ向かった。大聖寺は、加賀百万石の支藩・大聖寺藩の城下町である。10時15分大聖寺駅へ到着後、タクシー3台に分乗して山の文化館へ向かう。

山の文化館では、深田久弥に関する資料が多数展示されていて、在りし日の深田久弥について思いをはせるとともに、深田久弥の人となりについて研鑽した。帰りには、山の文化館近くの江沼神社の境内に立つ深田久弥文学碑に立ち寄った後、今は、印刷業もやっているが、昔は紙屋だったという深田久弥の生家を訪れた。

昼食を金沢駅構内で取り、今夜の宿である市ノ瀬の一軒宿・白山温泉永井旅館へ向かった。その途中、白山比咩神社と手取峡谷に立ち寄った。白山比咩神社は全国に3000余社ある白山神社の総本宮で、創建は崇神天皇の時代の紀元前1世紀とのことである。ちなみに奥宮は2日後に登山予定の白山御前峰にある。手取峡谷は宮崎の高千穂峡谷に似ているのだが、山中ではなく、周りを田んぼに囲まれた何とも不思議な峡谷であった。

永井旅館には15時の到着。すぐに入浴し18時から夕食を取った。風呂は弱食塩泉で、疲労回復などの効能があるという昔ながらの木の湯である。食事は岩魚の塩焼き、こごみやうどなどを使った山菜料理、白山名物の堅豆腐料理などが出され、これらをつまみにおいしく料理を頂いた。翌日の登山のために夕食後すぐに就寝する。

3日目（29日・晴れ）

市の瀬発(6：30)～別当出合到着(6：45)準備体操後、身支度を整え白山室堂に向けて登山開始(7：00)～砂防新道コース～中飯場(8：09)～別当覗着(9：20)～甚之助避難小屋着(10：30)

トップ関口副支部長、ラスト伊藤支部長の体制で確実に高度を上げていく。適度な速度と30分おきの休憩のおかげであまり疲労を感じることもなく、ほぼ予定通りの時間に各ポイントを通過。さすがだと感服した。甚之助避難小屋では、飲料水の調達やトイレのための小休止。ここでは水の出が悪く、飲料水、トイレとも大行列ができ、予定より長めの休憩となった。

11時32分南竜分岐着。当初の計画は黒ボコ岩経由であったが、コースを変更し、南竜道、エコラインを経由して弥陀ヶ原へ向かった。南竜分岐を過ぎたあたりから徐々に高山植物が増え始め、お花畑も見られるようになってきた。

13時09分弥陀ヶ原着。ここで小休止した後、お花畑の中に整備された木道を歩いて、今日の目的地の室堂へ向かった。

ところが、室堂まであと30分という所（五葉坂）で、以前から痛めていた原さんの足にトラブル発生。続いて高畠さんもトラブル発生。お二人に付き添う形で伊藤支部長が残り、皆から少し遅れて14時20分無事に室堂に到着。これで全員が今日の目的地室堂にそろった。

受付を済ませ、宿のこざくら荘へ。部屋は、二段ベットの20人部屋である。部屋にザックを置いて、一番にすることは、もちろんビールです。

室堂に全員集合

御前峰にて

食堂でしばらくの間、ビール片手に今日あったことや、明日のことなどについて歓談しながら、夕食までの時間を過ごした。17時50分夕食。

親のいない施設の子供たちと施設でのお父さん、お母さんと同部屋であった。施設の子供たちと北九州支部のお母さんたちとが、消灯時間近くまでいろいろなことを話していたようだが、それを聞きながら私は途中で沈没してしまった。

4日目（30日・晴れ）

準備体操後3時50分御前峰へ向けて登山開始。前日、足を痛めた原さんは留守番することになり、残り8人での登山となった。室堂と御前峰の標高差は259㍍。コースタイムは40分である。

御前峰山頂にある白山比日咩神社奥宮までの参道は、ここが2500㍍を超える高山かと思えるほど立派な石の階段が作られていて、その参道には室堂から山頂までを「お日の出」（白山ではご来光のこと）を拝みに行く人の光の列が続き、幻想的な光景であった。4時40分御前峰到着。

「お日の出」を待つ間に神職から白山神社の由来などについての説明があった。そして4時58分「お日の出」と同時に登山客全員による万歳三唱の大合唱が起こった。山頂には200～300人もいたであろうか。たいへんな賑わいである。「お日の出」後、石垣に囲まれた白山比咩神社奥宮でお払いを受け、お神酒を戴き、登山の安全を祈願した。この日供祭は、夏山期間中は晴れていれば毎朝、神主により執り行われるとのことである。

日供祭終了後、全員で記念写真を撮った後、下山にかかる。伊藤支部長と前日足にトラブルのあった高畠さんは、来た道を引き返し直接室堂へ下山したが、残りの6人は、御宝庫（おたからぐら）の横から紺屋池を目指して下り、翠ヶ池から血の池、千蛇ヶ池の脇を通って室堂へ戻る、お池めぐりコースで下山した。千蛇ヶ池から室堂までの岩間道にはヨツバシオガマ、ハクサンコザクラ、コイワカガミ、ミヤマクロユリなどが咲くお花畑が広がり、写真撮影に熱中した。7時49分室堂着。

7時50分全員そろってアルプス展望コースをたどり、今夜の宿の南竜山荘を目指して元気に出発。しかし、間もなくトラブル発生。

賽の河原の分岐で、標識が人の影に隠れて見えなかったこともあって、大白川方面へ道を間違える。途中で間違いに気付き、来た道を約1時間ほど賽の河原まで戻ることになった。そこで今回の山行で一番綺麗であろうお花畑に出会えたことに、みなさん、怒るというよりむしろ感謝している様子であった。

13時無事南竜山荘に到着。南竜山荘は、ウオシュレット付完全水洗トイレがあり、スタッフの対応もよくて、なかなか気持ちのよい山小屋でした。高校生の団体が宿泊していたが、我々のパーティ9人は少し狭いが一部屋を与えられ、仲よく睡眠した。

５日目（31日・晴れ）

下山開始(6：30)～甚之助避難小屋(7：35)～中飯場着(9：33)～別当出合着（10：10）

中飯場からは下り専用道路を通って別当出合いに到着。10時18分発の登山バスに乗車し、10時30市ノ瀬着。永井旅館で3日間の汗を流し、正午に金沢行きの貸切マイクロバスに乗車。途中、天然記念物の御沸供杉を見学し、13時30分金沢駅に到着。行き同様、駅構内で昼食をとる。15時15分金沢駅を発車。18時04分新大阪駅着。18時22分新大阪駅発車。途中、下関組の5人は徳山駅で乗り換えて下関へ。北九州と筑豊組の4人はそのまま小倉駅へ。

◇今回の山行は、山登りだけでなく、美しく広大なお花畑を満喫。

さらに、深田久弥や加賀の歴史にもふれ、加えて景勝地も訪れるという、変化に富んだたいへん楽しいスケジュールでした。　そして、何より全行程晴天に恵まれたことが一番でした。伊藤支部長をはじめ、同行の皆さんお世話になりました。有難うございました。

＜お礼のごあいさつ＞

「今回の山行に際し、日本山岳会石川支部の前川さんには、山の歌本が取り持つ縁で、この計画が実現し、計画段階からコースの下見など、大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。」

北九州支部長 伊藤 久次郎

参加者：9人

原　広美、伊藤久次郎、高畠拓生、関口興洋、大内喜代子、木原　充、大谷恵美子

(ビジター)松山澄夫、佐々木鈴子

＝夏山個人山行特集＝

◇◇◇それぞれの穂高◇◇◇

個人山行・７月19日～24日
霞沢岳･焼岳･西穂高岳を歩く

No.13520 西村信子(文)、No.13810 西村 俊二

2012年の夏山は以前から気になっていた霞沢岳と穂高岳の前・北・奥は登っているが、西穂高岳は未踏なのでそのピークを踏む、が今年のメイン。

①、2回目の歩きとなるが、いにしえの道、W・ウェストンが歩いた島々谷を経て徳本峠小屋に泊まり、霞沢岳に登る。

②、西穂山荘より西穂高岳へ。ロープウェイを利用して新穂高温泉へと下りてその日のうちに我が家へ帰るか、山研に泊まったことがないので、もう1泊して翌日ゆっくりと帰るか？

それで計画を練る。やはりいつもの一週間の行程。歩けるだろうか、頑張ろう！

1日目（7/19）

夕方我が家を出発し、新大阪へ。夜行バスで松本へ、満席。

2日目（7/20）

徳本峠入口(7：00)→岩魚留小屋(11：13～12：03)→徳本峠小屋(15：45)

歩き始めてすぐに雨が降り出したので、傘をさして歩く。最初は林道歩き。二俣より登山道らしくなり、川に沿って歩く。戻り橋・行き橋を通り岩魚留小屋へ。ここまで出会った人は魚釣りの人が３人、下山者が1人の計4人のみ。静かな峠越えです。

小雨が降ったり、やんだり。力水にて汗をかいた身体をふいて、３ﾘｯﾄﾙの水を汲んでザックに入れる。ジグザグの道で高度を稼ぐが思うように足が進まない。

やっと徳本峠小屋に到着。宿泊手続き完了。管理人は椎田町出身。

霞沢岳にて

弟さんは高校の後輩で今は小倉南区に住んでいるとのこと。故郷の話に花が咲く。今日は宿泊者が多くて新しい小屋ではなくて、ツッカイ坊をした壊れそうな昔からの小屋の２階に寝る。寝心地は良かったが、柱のはりが出ているので移動の時につい頭をゴツン。

3日目（7/21）

徳本峠小屋(5：00)→ジャンクションピーク(5：50)→K1(8：17)→霞沢岳(9：21)→徳本峠小屋(13：15～14：15)→
上高地西糸屋(16：32)

今日の霞沢岳は7～8時間の歩き。それから上高地まで行かなくてはならない。

雨で、徳本峠からの穂高連峰の展望は望めない。道は、はっきりとしている。G・Pを過ぎ、アップダウンの繰り返し。桜が咲いており、キヌガサソウも白とピンクの花を見かける。クロユリも一輪咲いていた。

登りつめたピークがK1。霞沢岳へと向かう。ハイマツ、ハクサンシャクナゲの咲く岩場を一旦下る。稜線はお花畑。K2を過ぎ、霞沢岳(2646m)に到着。青空だったら展望も素晴らしいだろうが、ガスで何も見えない。先ほど居たK1が見えるのみ。

下山は歩いてきた道を戻るだけですが、K1からG・Pまでの道のりが長かった。小屋に戻り、荷物の整理をしていると、筑紫野市のKさんという方が「福岡県の方が来ていると聞いて～」とあいさつに見えました。山で同郷の方と会うのは嬉しいですね。まだまだお話をしたかったのですが、上高地へと一旦下山。

4日目（7/22）

西糸屋(5：35)→焼岳登山口(6：30)→焼岳小屋(8：40)→焼岳・北峰(10：15)→西穂山荘(15：20)

今日も朝食前に出発。W・ウェストン碑に立ち寄り、門構えの立派な西穂高岳への入口を過ぎ、焼岳登山口へ。樹林帯の中を進んでいると雨が降り始め雨具を着用。

前方の岩峰に長い梯子が取りつけられている。少し湾曲しているようだ。雨で足場が悪いので注意して登る。お花畑を過ぎ、「焼岳小屋まで120歩」と岩に書いているが、私の足幅では200歩近くかかりました。

小屋で一休みして、山頂へ。活火山で三角点のある南峰は立ち入り禁止。北峰にて記念撮影。焼岳小屋まで戻り、西穂山荘への道を歩く。この道も余り通る人はいな

ピラミッドピークにて

いようで、7人とすれ違っただけでした。

西穂山荘の食事は大変おいしくて大満足。部屋もゆったりでした。

5日目（7/23）

西穂山荘(5：02)→丸山(5：22)→西穂独標(6：30)→ピラミッドピーク(7：09)→西穂高(8：06)→西穂山(（10：33～11：22)→西穂登山口(13：37)→山研

霧雨の中を出発し、丸山に到着。歩きにくい石ゴロゴロの道を独標へと進む。このころになると青空が見え、雲海の彼方より笠ヶ岳が顔を出す。休憩を兼ねて雨具を脱ぐ。独標の手前でブロッケン現象に遭遇。久しぶりの青空に写真撮影が忙しい。

独標よりは岩場の世界。ストックをザックの中に入れ、三点確保で進む。ピラミッドピークを過ぎ、岩場に咲く花に癒され、元気をもらい西穂高岳へ。これで穂高の名前のついたピークを全部登頂。

富士山･槍ヶ岳･笠ヶ岳･乗鞍岳･御嶽山など360度の大展望。最後の日にこの景色を見ることができ、一週間の山歩きに大満足。西穂山荘へ戻り、上高地の山研へ。宿泊者はわれわれ2人のみ。セルフサービスですので掃除機をかけて使用した部屋をきれいにし、お暇をしましたが、管理人の内野さんはとても感じのよい方でした。美味しいコーヒーをごちそうさまでした。

6日目(7/24)

河童橋より穂高の山々･焼岳に別れを告げて、バス･電車を乗り継いで九州へ。

前半はあいにくの雨でしたが、今回の目的もかない、西穂高岳から今までに登った山の展望も得られ、大満足の2012年の夏の山歩きでした。

西村信子　記

個人山行・８月４日～９日
「夢は見るものではなく、叶(かな)えるもの」
＝穂高連峰単独縦走＝

No.14816　中野　洋子

８月４日（土）（移動日）

小倉より新幹線、新大阪より高速バスに乗る。

５日（日）

大正池(6：10)～河童橋(７：08/７：40)～明神(８：30)～徳澤園(９：30)～横尾山荘(10：35/11：15)～槍沢ロッジ(12：54)

釜トンネルを抜けると、朝日のあたる焼岳が目にはいる。もしかしたらと思い大正池で急きょおりた。湖面には、くっきりと焼岳が映し出され、ときおりカモが一筋の線を引く。その度に稜線は揺らぎながら元に戻る。時のたつのを忘れさせるこの風景に、後ろ髪を引かれる思いで池をあとにする。大好きな田代池、ウォルター・ウエストン(日本アルプスを世界に紹介し小島烏水と親交が有り日本山岳会の設立を提唱し近代登山史上に重要な役割を果たしたイギリスの宣教師)のレリーフ、河童橋へと足を運ぶ。

橋から見る穂高の峰々も青空との境をハッキリさせ、歩くりょう線が目に飛び込む。あれが奥穂高岳、ロバの耳、ジャンダルム、窪んだところは天狗のコル、間ノ岳、西穂高岳と連なる峰を追いながら「完全完走」を誓い後にした。

明神では偶然に重廣関西支部長にお会いでき、歩き始めたその時

重廣関西支部長と

「一緒に写真撮りましょう」と呼び止めていただき、今からの山行に光を感じ、足取りも軽く出発することができた。その後は景色と、お花にいやされながら横尾山荘に、ここでカレーを食し、すこし山道らしくなった道を槍沢ロッヂに向け踏み出し、早めの小屋入りとなった。

６日（月）

槍沢ロッヂ(5：20)～水俣乗越(6：13)～天狗ヶ原分岐(7：28)～槍ケ岳山荘(10：30/11：10)～飛騨乗越(11：25)～中岳(12：25)～南岳小屋(13：55)

雨・曇り又は霧の予報・人の会話では夜中に雷がすごかったと言っているが全く気付かなかった。止んでいた雨は、出発前に再び降り出したので様子をみる。今日は南岳小屋に着かなければ明日からの日程が狂う。

雷が鳴らないことを願い出発。水俣乗越に着くころには青空がのぞくようになり、グリーンバンドにさしかかるとそれまで見えていた槍ケ岳の姿をすっぽりとガスが隠し、風とのイタチゴッコを始めた。

時折、風が勝ちすき間から見せる雄姿は、天を突き刺しているようで、一瞬疲れを忘れさせてくれる。

山頂に登る人が多いのと、お昼からの天候が心配なので穂先に登ることを断念。山荘でおうどんを食し縦走の出発点となるテント場に行くとガスで道が全く見えない。地図とコンパスで方向を定め進む。

テント場を抜け飛騨乗越に下り、登り返す。二重山稜の左の尾根を行くと大喰岳に着く。再び縦走路に戻り、なだらかな道を下り、二段のはしごを登り中岳に着いた。なだらかな山頂は、小さいケルンがいっぱいあり異様な雰囲気を醸し出していた。

南岳にはりょう線を歩きゴロゴロした道をカールに下る。石にはペンキの印がいっぱいで迷うことはない。

ガスがかかったり晴れたりしていた天気は、天狗原稜線分岐にさしかかるころ、視界が悪くなり雨が降り出した。南岳の山頂を踏んだ時には、さらに強くなり槍ケ岳を断念したことは正解だったと確信しながら、南岳小屋への穏やかな道を急いだ。

７日（火）　南岳小屋(5：15)～長谷川ピーク(7：36)～Ａ沢のコル(7：58)～北穂高小屋(9：38／10：20)涸沢岳(13：21)～穂高岳山荘(13：40)

夜中に窓をたたいていた風は少し和らいでいるようだ。獅子鼻に登るルンゼ状の岩稜を飛騨側に下りる途中、急にガスがわき風雨が強くなったので、フリース、レインウエアーを着てツエルトをかぶり岩陰で30分ほど待機する。垂直で長い２段の鉄ばしごを使いキレットの底に下りる。思っていた以上に道幅があり岩も安定して歩きやすい。その底のアップダウンを繰り返し長谷川ピークに行く。

ピークからの滝谷の岩壁は私を威圧するかのように姿を現したが、ここから見える飛騨泣きの岩稜、北穂高岳のやせた岩稜は、それ以上のものに感じワクワク感を与えてくれた。いよいよ大キレットの核心部に入るのだと思うと胸はさらに波打つ。鎖、鉄杭を頼り三点支持で浮石に気をつけながら進みＡ沢のコルに着く。下りた道を振り返ると人が蟻のように小さく見え、通った道が全く分からない。

一番助かったのは岩盤に打ち付けられた4カ所の足場、信州側を空中散策するかのごとく渡り回りこむ。悪路といわれる「飛騨泣き」も難なく通過、近づいた大岩壁を眺め、北穂北壁の急登を登り北穂高小屋に着いた。

大喰岳から槍ケ岳

大休止後北穂高岳北峰へ、北側のすぐ下に荒々しい大キレットの稜線、その奥の槍ヶ岳に続く峰々が見えるのだが今日はガスの中。昨年この場所に立った時ははっきりと見え「無理」と思った自分が今こうして此処にいる。改めて残りの行程を成し遂げる決意をする。

北峰より南峰の分岐まで下り北穂高岳の南峰の稜線に出て涸沢岳への縦走をはじめる。ここよりやせ尾根を今までのように鎖、鉄くいに助けられ、英彦山で見られる材木岩のスケールの大きい岩峰を越え、スラブ状の一枚岩を下り、登下降を繰り返しながら涸沢岳に着いた。ここから穂高山荘は近い、今日もガスのかかり始めた道を歩き、ヘリポートを見てほっとし、テラスに着いたときには「ここまで来たのだ」と感無量になった。

８日（水）　穂高岳山荘(4：45)～奥穂高岳(5：34／6：40)～ジャンダルム(8：15)～天狗のコル(9：20／9：53)～西穂高岳（13：06）～西穂独標(14：38)～西穂山荘(15：43)

縦走最終日・日の出の時刻は雲がかかっていたが、だんだんと青空になる。山荘の南側から岩肌に取り付き奥穂高岳の山頂に着いた。頂からは出発点となった槍ヶ岳、中岳、北穂高岳、滝谷ドームと続く岩稜を確認する。

馬の背では風のあおりを気にして、数人の人が通過を懸念している。待つこと１時間、少しおさまった時をねらい前進する。意外と簡単に通過し、続くロバの耳も楽に通過、いよいよジャンダルムへの挑戦となる。

行く手を阻むかのように目の前に現れた岩は、意外と小さく感じる。ホールドもあり鎖に頼ることなく登ることができ、山頂には固定されず持ち運び自由な標識と風見鶏がある。ここで大失敗カメラを忘れた。ザックに入れたまま。景色は目に焼き付け、登りとは別ルートで下り、ゴロゴロした岩のこぶ尾根を登降しながら天狗のコルに行く。ここはかって避難小屋がありエスケープルートとして使用されているが、ガレ場ザレ場の急下降、簡単に下りることはできそうもない。上から下りる人待ちで30分のロスタイム。鎖が付いているが短く、岩もオーバーハングほぼ垂直の壁を登り着いたときの高度感はかなりある。

天狗の頭からは目指す西穂高岳が三角錐に見え、頂の標識がさらに形を強調している。下りの逆層スラブは片手で鎖を持ち小走りするような感じで下りることができ楽しめた。これより間ノ岳に向かうのだが幾つかのピークを越えて

西穂高岳にて

いるうち、岩に書かれた山頂標識を見落としてしまった。

西穂高岳に取り付く最後の下りも分かりづらく途中の岩棚に乗り、回りこまなければそのまま谷底に行きそうな場所。私にとってここは、今までのどの岩稜、岩壁よりも難所に思えた。回りこむと目の前に西穂高岳がそびえたっている。取付きだけに着いた印を目がけ急降下し、荒々しい岩をルートファインディングしながら山頂に立つ。

ここより今日の山荘までは2時間、まだ気の抜けない独標までの登降を繰り返し、ガスがかかり始めた丸山を通り過ぎ歩きやすくなった道を西穂高山荘に急いだ。宿泊の手続きを済ませ単独行を心配してくれていた友に一報を入れ、自分のことのように喜んでもらえたこと、そして今、無事でいる自分に涙があふれた。それから山友にも会え、難所を通過した緊張から解放される自分に気が付いた。

9日（木）

天気も良く爽やかな朝を迎える。ロープウェイで下山するため乗り場に行く。4度目の展望台だが稜線が奇麗にはっきりと見えるのは初めてだ。それを見て感無量になり、だんだん小さくなる山並に寂しさを覚え、また来たい衝動に駆られる。温泉に入り身体を癒し、車中の人となり高山経由で予定通り帰宅することができた。

◇縦走を終えて

会に入る前から歩きたいと思っていたこのコース、当初2人の予定だったが、急きょ行かれなくなり単独行になった。縦走路の山小屋からのエスケープルートも計画を立て直し、絶対に無理はしない約束で決行する。奥穂高まではしっかりしたペンキの印があるが、ジャンダルムを過ぎると少なくなり、的確なルート・ファインディングの必要性がでてくる。

岩に慣れるため、クライミングを習い、昨年の剣岳源次郎尾根で学んだことが実となり、危険場所でも冷静さを保ち、岩場での鉄則を守り前進できたことが完走につながったと思う。

「夢は見るものではなく、叶えるもの」の持論に従い、もっとクライミングを習い次へのステップにつなげたいと思っている。

個人山行・８月28日～９月02日

４０年前の足跡をたどって

No.14852 竹本正幸　No.14853 竹本加代子(文)

昨年、念願だった黒部下の廊下を歩いた山行後、今年の夏山の話に及び私は裏剣を熱望した。しかし、春山の北穂から奥穂が悪天候のため不完全燃焼に終わり、いつの間にか暗黙のうちに、槍ケ岳から西穂高岳の縦走に心変わりしていた。

40年前、夫は６月に単独で、私は８月に友と二人で、今回の逆コースである西穂より槍の縦走を経験しており２度目の山行となった。

当時ジャンダルムは巻いただけで頂上には立たなかった。狭い縦走路にツエルトを張りビバークをしたその場所を確認したかった。

年を重ねるたびに２度目はないだろうと思っていた縦走が思いがけずかなう。

今回は、体力トレーニングと平尾台唐手岩での岩登りをして臨んだ。しかし、夏休みの孫守りで十分な準備ができぬまま一抹の不安を残した出発であった。

１日目（8/28）

マイカーにて自宅3時30分出発(900㌔㍍)平湯16時30分着キャンプ場にて車中泊。

２日目（８/29）

平湯(6：50)→上高地発(7：40)→横尾(10：30～11：10)→槍沢ロッヂ(12：50)

バスで平湯より上高地へ。今回、心掛けたことの１つにザックの総重量をできる限り軽くするため行動食を少なめに、ハーネスは簡易ハーネスにした。それでも、夫は13㌔、私は10㌔になった。その結果、明神、徳沢、横尾、槍沢ロッヂと楽な足取りとなった。

天気が不安定な事も心配の種であった。雨が降れば槍ケ岳はともかく縦走ルートの岩場のリスクも大きく中止と決めていた。その雨は槍沢ロッヂ到着後降りだし、一息入れて夕方から又ひとしきり降るといったパターンで翌日の天気にはヤキモキした。

３日目（８/30）

槍沢ロッヂ(４：45)→水俣乗越(５：40)→天狗ヶ原分岐(６：40)→槍ケ岳山荘(9：05)→槍ケ岳往復→槍ケ岳山荘(10：20)→中岳(11：25)→南岳(12：50)→南岳小屋(13：10)

南岳小屋より大キレット

今日は、朝食弁当にして早めの出発となる。鮮やかな紫紺のトリカブトに立ち止まる。水俣乗越で朝食弁当を食す。ここを過ぎると下山してくるグループにたくさん会うようになった。近時、ガイド登山の流行が見られ、そんな４～５人のグループもいれば20人ほどのツァーグループだったりもする。そのたびにコースを譲ったり譲られたりする。

天狗原分岐を過ぎ、槍の穂先が見えてくるが中々槍ケ岳山荘には到着しない。「この国に生まれてよかった！」とテンションのあがる若者と、前になり後になりながら槍の穂先に思いを募らせ予定より早く山荘に到着。

一息いれ槍ケ岳山頂へ。山頂で記念の写真を撮り、少しばかりガスの切れ間の眺望を楽しむ。人の列も少なく40分ほどで穂先の往

復を済ませる。

ここからは飛騨乗越まで下り、大喰岳・中岳・南岳と3000㍍級のりょう線の縦走路を歩く。時折ガスが漂いライチョウの親子に何度か出会いいやされる。南岳の頂上に立つと目の前に飛び込んできた南岳小屋と北穂へと続く切り立った岩稜。明日はあの大キレットをいくのだ。小屋に着くとしばらくしてまた、雨である。

４日目（８/31）

南岳小屋(６：00)→長谷川ピーク(７：10)→北穂高岳(９：05～９：40)→涸沢岳(11：55)→穂高岳山荘(12：20)

昨夜の雨はウソのように上がり一安心。朝食前に、常念平でこれから挑む大キレットを眺める。その先にある北穂と北穂小屋が本当にすぐそこに見えている。その左には前穂も見える。常念はもちろん富士山・後立山連峰とそして雲海のかなたから昇る日の出がいい朝となった。今日の行程は短いので小屋で朝食をいただき出発する。あれほど降ったにもかかわらず岩は思ったより滑らず、キレット最低鞍部へとクサリが連続する急斜面と長い鉄ハシゴを下り、さらに高低差を感じさせるキレットの底へと慎重に向かう。鞍部から白い丸印や矢印に従って長谷川ピークを登りつめ、またコルへと下る。

さらに北穂高岳を目指してやせた岩稜を飛騨側に回ったり信州側を登ったりクサリや鉄くいのステップに助けられ登って行った。緊張の連続だったが、岩かげに咲くイワツメクサやイワリンドウには肩の力も抜けホッと一息癒された。

北穂高小屋に着いたときは、岩場にも慣れてきて大キレットを登りきったという思いがはじけ、一杯のコーヒーが最高においしかった。

後は、穂高岳山荘へと岩稜歩きには変わりなかったが核心部のキレット通過を終えたので余裕もでき風景を存分に楽しんだ。滝谷第４尾根を３人の若者が登っているのを下に見ながら落石を起こさないように特に注意をした。穂高岳山荘に着き、テラスで今日の日に乾杯をしていると、また雨が降りだす。

５日目（９/１）

穂高岳山荘(４：40)→奥穂高岳(5：20)→ジャンダルム頂上(７：10)→天狗のコル(8：40)→西穂高岳(11：35)→西穂山荘(13：40)→上高地バスターミナル(16：30)

昨夜も深夜12時ごろまで雨が降り今日の行程を心配したが、朝

ジャンダルムにて

には雨が上がっていた。今日は、キレット以上の難コースの縦走路を経て上高地へ下る12時間の行程。

奥穂山頂を目指した多くの登山者は山頂のガスと風の中、記念写真を撮り、前穂・岳沢コースへと下って行った。我々は風が強かったので雨具を着けて風を避け朝食弁当を食べた。。こんな状況ではあまり食べられず、それでも少し食べて、もう馬の背の方へ気持ちが向かっていた。

ガスっている中を縦走路へと消えて行くグループに我々も続いた。風は背中のザックの重量に比例して足元をふらつかせる。幸いにもしっかりとした岩場でホールドもありスタンスもある。このやせた馬の背の高度感はこのコースの最難関だと思った。高度感を消すガスに救われて、馬の背を過ぎると風もおさまり、ロバの耳からジャンダルムの岳沢側をトラバースして西穂側から頂上へ立つ。奥穂山頂より何度も見たジャンダルムに立つ人の光景。ジャンダルムの頂上から奥穂山頂に立つ人を見ることのできた喜び。何度も何度も奥穂に向かって手を振ってみた。奥穂から手を振る私が見えただろうか。夢かなった瞬間であった。

いくつかのグループが前後して下るとき、アクシデントが起こった。３～４人のグループの１人が２～３㍍滑落した。幸いにも岩のテラスで止まり事なきをえたが、あの岩棚がなかったらと思うとゾッとした。

一歩一歩慎重に神経をそそぎ歩く。それから急な長い岩りょうを天狗のコルまで下った。そこには何段かの石積みの囲いがあった。40年前ビバークしたのはここだと思った。あの時、満天の星空と遠くふもとの明かりを眺めたことを懐かしく昨日のことのように思った。それからも難路は続き間ノ岳・いくつもの小ピークの登下降を繰り返し、やっと西穂高岳に到着。

我々とは反対からのコースで西穂までの登山者も多くなり緊張感から解放される。それから西穂山荘まで下り、西穂ラーメンで遅い昼食をすませ、また雨がパラパラときたが当初の計画どおり上高地に向けて出発した。厳しかった奥穂から西穂間の困難な岩場をひとつひとつ越えてきた達成感にひたることなく、一路上高地まで下山。足が棒になるとはこのことで、平湯の温泉につかり縦走の成功に乾杯した。

今回の山行は、午後雨に降られたにもかかわらず行動中はガスがかかる程度で縦走でき幸運であった。ザイルを持参していたが使うこともなく、ルートもよく注意すれば問題ないが、迷い込めば大変なことになる。

縦走路は浮石も多く、落石への注意は怠ることができない。

６日目（９/２）

平湯キャンプ場を後にして、九州のわが家へ。　竹本 加代子記

個人山行・９月14日～16日

年ごとに山が遠くなり、高くなる

＝天狗のコル～ジャンダルム＝

No.14097 内藤 正美

猛烈な台風の接近により一人躊躇するので、気が進まないときは事故に遭う恐れが高いと不参加にしてもらい、藤井さん（以前坊ガヅルのテント泊に参加したことあり）と二人で予定通り９月14日20時小郡出発。

初日は岳沢までなのでのんびりいけると、途中仮眠しながら7時高山到着。買出しをして平湯アカンダナ駐車場に８時着。連休なので満杯の車、どうにか一台のスペースを見つけ、身支度を整え出発。

９時ごろ上高地着。大勢の観光客に紛れ散策。５千尺ホテルのケーキセット1300円。奥穂高の山頂は顔を出さないが、つり尾根から前穂にカメラを向けている人が多い。

昔穂高小屋のボッカをしていたという人もいて話し込む。昼飯も済ませ11時半ごろからのんびり歩く。快晴は嬉しいが何せ暑い。汗だくになりながら展望所で一休みしていると上空にヘリコプターが旋回を始めた。遭難だなと10人ぐらいが注目していたが、なかなか見つけることができないようで、間ノ岳からロバの耳あたりまで飛んでいたが、そのうちガスがかかり始め、あきらめて帰っていった。あとで聞いた話だと20ﾒｰﾄﾙぐらい滑落したそうだ。

15時、新築の岳沢小屋でテントの受付をするが対応が悪い。満杯の泊り客で手一杯なのだろうが、次回ここでは泊まりたくないと思う。ただ水とトイレが無料はうれしい。

テント場が狭く各自思い思いに設営している。50張りぐらいのカラフルなテントで単独行や女性が多い。17時夕食を済ませる。台風が気にかかり原野さんに電話をすると17日に接近してくるとのこと。　二人で相談して忙しいが明日の最終バス17時で帰ることにする。

小屋での情報では明日の天気は芳しくないらしい。20回ぐらい来ているが、槍、穂高の山頂で一度も眺めの悪かったことはないので好かれていると自負している。

睡眠不足もあり18時すぎには

ジャンダルムと奥穂高岳

就寝。１時すぎには目覚めるが早いので３時ごろまで寝袋の中。外に出ると満天の星にうれしくなり、予定より早く４時ごろ出発。暗闇の中を天狗のコル目指す。途中ガレ場でルートを間違えたが、７時コル到着。風が冷たいので北九州の赤いウインドブレーカーを着込む。後を単独行の若い人（Ａ君）が来たので先行を進めるが、初めてなので後を付いて行きたいとのこと。

西穂から大きな荷を背負い３時間できた健脚な30歳の埼玉の人（Ｂ君）も交え休憩。この男性はすでに１００名山も踏破したとのこと。私のあこれの北鎌尾根も登っていると聞き話が弾む。結局上高地まで同行した。高齢者二人を心配したのかもしれないし、日本山岳会の名が入っているのでベテランと勘違いしたのかもしれない。

前夜、穂高岳山荘に宿泊した人の多くが西穂を目指したらしくすれ違いが多い。ヘルメットをかぶった団体が下ってくるとき、初心者が多そうなので落石に注意して避けておくように話すと、A君はなぜ分かるのかと質問してくる。足の運びを見なさいと教える。９時ジャンダルムの上で今回の目的のコーヒータイム二人にもすすめる。遠く北の朝日岳から富士山、御岳山と本州中部の山々を堪能していると一時間がすぐたってしまう。

奥穂の山頂は黒山の人だかり、長居はできないので前穂に向かう。つり尾根でもすれ違いが大変。11時半予定より遅れ紀美子平着。（以前雷鳥広場と呼ばれていた）

昼食は欲しくないので、カロリーメイトとアンパンで済ます。時間が心配なので前穂は割愛して下る。もうひとつの目的である稲富さんの負傷場所を見つけようと下りを跳ばす。ほとんど下りた辺りに長いはしごがあり落石注意の立て札があった。多分ここだろうと予想できた。

テント撤収後は荷が重くなったのと急ぎすぎたので（３時間のところを１時間で降りていた）踏ん張りが利かない、暑さもこたえペースが落ち皆に追い越される。何度も足をとられる。B君は若いだけあり一度もつまづかない。うらやましい限りだ。

ジャンダルムでコーヒタイム

16時半やっとの思いで河童橋着。若い人と別れバスセンターへ向かう。A君は徳沢でテントを張

るとのことうらやましい。17時が最終なのになん百人もの人が並んでいる。聞くと２時間並んでいる人もいた。往復切符を購入しているのでタクシーももったいないと思い、係員に聞くと最後の一人まで増発すると返答があったので、最終便に決め列に加わらず夕食を取る。ようやく最終バスに乗ることができ、19時駐車場に着く。

平湯の温泉も超満員、観光客が多いのもうらやましいが、多すぎても大変だなと思う。高速道路では途中事故のため荘川ICで下ろされる。ナビがあるから次のICまで行けたが、案内もなしに苦労した人が多かったろうと思う。岡山あたりから風が強くなってきたが無事小郡到着。

丁度岐阜国体の開催中だった。40数年前、槍穂高が会場での岐阜国体に参加したのを思い出すと体力の衰えを痛感する。

年ごとに山が遠くなり高くなる。次は登れるかなと心配になってくる。

◆月例山行の中止◆

○　韓国「雪嶽山」

10月12日(金)～15日（月）の４日間の日程で計画しておりました韓国第３の高峰「雪嶽山」への山行は、参加者人数不足の為、中止と致しました。また、いつの日か再挑戦したいものと思っております。

○「万年山」

９月30日の月例山行「万年山」は台風17号接近のため中止になりました。19人参加の予定でしたが残念です。次の機会を期待します。

（事務局：山田武史）

お知らせ

＝九州シカ広域一斉捕獲＝

☆☆入 山 注 意☆☆

九州森林管理局より、下記の通り、シカの一斉捕獲を実施するので、実施日には入山しない様にとの、協力依頼がありました。

１、捕獲実施日：計５日間
　平成24年10月14日、21日、28日
　平成25年03月24日、31日

２、対象区域：

福岡県：（13）
苅田町、行橋市、みやこ町、築上町、豊前市、上毛町、浜田町、遠峰村、朝倉市、うきは市、八女市、みやま市、大牟田市

熊本県：（20）
荒尾市、南関町、和水町、山鹿市、菊池市、小国町、南小国町、阿蘇市、産山村、高森町、山都町、八代市、水上村、湯前町、多良木町、あさぎり町、錦町、人吉市、球磨村、水俣市

大分県：（７）
中津市、日田市、玖珠町、九重町、竹田市、豊後大野市、佐伯市

宮崎県：（10）
延岡市、高千穂町、日之影町、五ケ瀬町、椎葉村、西米良村、小林市、えびの市、高原町、都城市

鹿児島県：（3）
伊佐市、湧水町、霧島市

本 の紹介

残 さ れ た 山 靴

佐瀬　稔

ヒマラヤの8000㍍峰登頂など高峰に憧れ、志半ばにして山に逝った登山家８人の最後を描く。加藤保男は冬のエベレストに、植村直己は冬のマッキンリーに、長谷川恒男は未踏のウルタンに、そして小西政継は58歳でマナスルに・・・。当時の日本を代表する登山家８人の、山に向かう心情や行動に共鳴し、綴られたレクイエム。

定価：本体880円＋税
山と渓谷社

会　務　報　告

平成24年７月定例役員会

日時：平成24年7月4日（水）
場所：小倉商工会館３Ｆ会議室
出席：伊藤、関口、原、濵松、馬場、山田、丹下、竹本、池田、藤田、中岡
欠席：板倉、日向
会務報告：支部長会議(6月16日)の報告(伊藤)
議題：
１、新役員の紹介
5月役員会欠席の竹本新役員より自己紹介。
２、会員の異動状況（7月1日現在）
通常会員：81人　（退会：吉田一三）
（入会：森本信子、縄田正芳）
支部友：56人（退会：森本信子、縄田正芳、林大輔）
（入会：大谷恵美子、村田美和、大賀健次、深田英美）
３、山行・行事報告
・５月12日(土)　皿倉山で山岳研修（園川講師）、11人参加。
・５月19日(土)　英彦山の花駅でトイレ協議会。板倉、山田が出席。
・５月26日(土)　英彦山清掃登山。21人参加。ゴミ41袋回収した。
・５月27日(日)　英彦山の山開き神事17人参加。
・６月 １日(金)～4日(月)　雨飾山・針ノ木雪渓(慎太郎祭)4人参加。
・６月12日(土)　九重の黒岩山登山。16人参加。
４、山行・行事計画
・７月22日(日)化石試掘体験と竜護峰登山
・７月27日(金)～31日(火）加賀の白山
・７月28日(土)　ＪＡＣ事務局担当者会議
・７月30日(日)　万年山、切株山登山
・10月 ７日(日)　大岩扇山～小岩扇山登山
・10月12日(金)～15日(月)　韓国　雪岳山（ソラク山)遠征登山
・10月20日(土)～21日(日)　全国支部懇談会（千葉支部主管）
・11月３日(土)　広島支部15周年記念式典
・11月３日(土)　宮崎ウェストン祭（公民館「ひめゆりセンター」泊）
・11月４日(日)　緩木岳～越敷岳縦走
・11月10日(土)～11日(日)　九重山群への広島支部との交流登山
・11月17日(土)～18日(日)　岐阜支部創立40周年記念行事
５、支部報の作成状況
7月発行の第61号は校正を終え印刷中。明日(5日)発送作業をする。
６、さいわい幼稚園遠足支援の件
6月12日及び14日に実施。当支部より大楠、関口、馬場、丹下夫妻が参加した。
７、支部規約改正の件
大楠元副支部長より改正案の提示あった。本部とも相談の上、改正案を成文化して別途、役員会に諮ることとする。
８、その他
・12月8日（土）開催の支部忘年会の会場は、「プリリアンサ門司港」の提案あり
門司区西海岸1-3-1　　☎　093-322-5550
（記載者：山田）

平成24年9月定例役員会

日時：平成２４年９月５日（水）
場所：小倉商工会館３F会議室
出席：伊藤、関口、板倉、日向、原、濵松、馬場、山田、丹下、竹本、池田、藤田
欠席：中岡
会務報告：７月２８日本部にて開催された、事務局担当者会議について、山田事務局長より報告。
議題：
１、会員の異動と会費納付状況
①、会員の異動（山田）
通常会員：82人（７月比　＋１人）
退会：末吉史忠（13642）
入会：大神信生（15172）
縄手修　（15174）
支部友　：55人（７月比　－１人）
退会：大神信生（北九416）
縄手修　（北九447）
入会：最所和彦（北九452）
会　友　：４人（７月比　＋－０）
合　計　：141人
②、会費納付状況（馬場）
支部友、会友60人中、９人が未納。
２、山行・行事報告
・6月30日(土)～7月１日(日) 自然保護全国集会(尾瀬)。日向役員が参加。
・　・7月22日(日)　化石採掘体験と竜護峰登山。16人(ビジター２人)が参加。
・7月27日(金)～31日(火)　加賀白山。９人（ビジター２人）が参加。
・8月4日(土)　皿倉山で山岳研修(園川講師)10人参加。

・8月22日(水)　記録映画「マナスルに立つ」の上映会計64人が参加（一般47人、会員17人）

3、山行・行事計画
・9月７日(金)　皿倉山で山岳研修（園川講師）
・9月30日(日)　万年山周回コース登山
・10月７日(日)　大岩扇山～小岩扇山の登山。
・10月20日(土)～21日(日)　全国支部懇談会（千葉）
・11月3日(土)　広島支部創立15周年記念式典
・11月3日(土）～４日(日）宮崎ウェストン祭（公民館「ひめゆりセンター」泊）
11月4日(日)　緩木岳～越敷岳縦走登山
・11月9日(金)～11日(日)　九重山群で広島支部との交流登山
・11月17日(土）～18日(日)　岐阜支部創立40周年記念行事

4、10月発行の支部報の原稿集まり状況。（竹本）
来年１月、２月の山行計画、スキー計画を掲載することにした。

5、支部規約改正の件。（山田）
改正案を各役員に配布、意見を求めた。来年４月の総会で諮ることにする。

6、緊急時の連絡網の件（山田）
遭難等を含む緊急時の連絡網を、山行委員会にて検討願うことにした。

7、その他（山田）
・支部の組織図は未完成であり、次の役員会に原案を報告、検討する。

記載者：山田

「忘年の集い」　のお知らせ

と　き：12月8日（土）　18：00～20：00
ところ：「ブリリアンサ門司港」
北九州市門司区西海岸1-3-1
TEL：0120-360-260
会　費：5000円
JR門司港駅より徒歩３分
申込み：事務局　山田武史（℡：092-844-3563）
締切り：11月30日

9月26日（水）　小倉サロン
ヒムルン・ヒマール（ネムジュン7,139㍍）遠征体験談

パソコンにて説明する江頭さん

９月26日小倉サロンでは、江頭精一さんのヒムルン・ヒマール遠征体験談が18時より行われました。

1984年、1988年2回の遠征に参加された貴重な経験と当時の写真をパソコンに写しながら、説明していただきました。

説明後質疑応答になり、高山病はどうだったかなどの質問に、持病のある方は、悪い所が出てくるので遠征前に治療しておくこと。

高山病に対しては、ダイアモックス(錠剤)を飲んで、水分を大量にとれば大丈夫。年令も大きく作用する。高山病を経験したことのある人は、対応が早くできる。18時50分に体験談を終わり、後は懇親会となる。　（竹本正幸）

支部行事のご案内

１．広島支部創立15周年記念式典
とき：11月３日（土）15時より
場所：ホテル「JALシティ広島」
費用：５千円
内容：①支部ルーム見学会　15：00～16：00
②記念式典　16：30～
（尾上会長記念講演）
③祝賀会　18：30～20：30

２．岐阜支部創立40周年記念行事
とき：11月17日（土）～18日（日）
場所：岐阜市湊町　ホテル「十八桜」
行事：17日　記念講演：穂苅康治氏(槍ケ岳山荘オーナー)
18日　記念登山：「金華山」329㍍

※以上締切り終了（お知らせまで）

山行計画のご案内

１１月の山行

１．第28回宮崎ウエストン祭

とき：11月3日（土）～11月４日（日）
集合：11月３日　　15：00「ひめゆりセンター」に現地集合
内容：３日16時より記念式典
　　17：30より神事、郷土園芸からカッポ酒へと続く。
宿泊：公民館「ひめゆりセンター」寝袋必要。
登山：４日の記念登山は、暖木山（1046㍍）～越敷山（1061㍍）縦走。
申込み：高畠拓生（TEL0948-53-1740）
　　山田武史（TEL092-844--3563）
締切り：10月末

２．広島支部との交流登山
（内容を一部変更）

とき：11月９日（金）～11日（日）
山名：九重連山（中岳及び久住山）
集合：①前泊組　11月９日（金）16時長者原駐車場
　　②当日組　11月10日（土）09時牧ノ戸駐車場
行程：
11月10日（土）
　９：30牧ノ戸出発
　●A班（健脚コース、所要時間６時間30分）
　　牧ノ戸～天狗ヶ城～中岳～久住山～すがもり越～大曲～泉水キャンプ場（16：00着）

　●B班（一般コース、所要時間５時間）
　　牧ノ戸～星生山～久住分れ～久住山～牧ノ戸～泉水キャンプ場（14：30着）

　18：00　バンガロー「あせび」で懇親会
　21：00　バンガロー「あせび」に宿泊

11月11日（日）
　８：00　バンガロー「あせび」にて朝食
　９：30　泉水キャンプ場にて解散
申込み：内藤正美（TEL：083-922-3884）
　　原　広美（TEL：083-245-5490）
申し込み時：希望コースの提示をお願いします。
締切り：10月31日

１２月の山行

１．年次晩餐会と黒斑山

とき：12月１日（土）～12月３日（月）

年次晩餐会のあと浅間山の冬景色を展望するのに絶好のポイント黒斑山（2404㍍）に登ります。標高のわりに冬でもアクセスが楽なコース。

概要：12月1日（土）北九州空港～東京品川年次晩餐会に出席（泊）
２日（日）東京～佐久平（長野新幹線）～車坂峠・・・・黒斑山（宿泊　高峰温泉）
３日（月）高峰温泉～佐久平～羽田～北九州/福岡
申し込み先：関口　興洋（FAX：093-382-6436）
　　Ｅメール：sekikoyo@sage.ocn.ne.jp
申し込み期限：10月31日

２．霜降山のご案内

とき：12月18日（火）
集合：新下関駅（正面バス停側）
出発：８時10分
山行時間：４時間半
申込み：大内喜代子（TEL/FAX：083-256-5288）
締切り：12月４日
※下山後は日帰り湯に寄りますので着替え準備。
参考：小倉発７：37（下関駅乗り換え）～新下関着８：01
マイカー：有料駐車場有（300円～500円）

１月の山行

１．英彦山・アイゼンワークの訓練

とき：１月20日（日）
集合：別所駐車場　午前９時
申込み：板倉健一（TEL：090-7163-1610）
締切り：平成25年１月５日

２月の山行

１．伯耆大山・冬山基礎訓練

とき：平成25年２月８日（金）～11日（月）
　　夜行バスにて往復
コース：宝珠尾根～三鈷峰、弥山
申込み：板倉健一（090-7163-1610）
締切り：平成25年1月５日
費　用：20,000円

特別仕様　完全限定受注生産プロトレックの頒布

前号でお知らせしました、日本山岳会特別仕様カシオ プロトレックの頒布を開始いたします。以下の要領でお申し込みください。期間限定ですので、ご留意ください。

●頒布価格　39,800円（税・送料込み）〈参考上代 56,700円（税込み）〉
●申し込み期間　2012年9月20日～10月31日（支払い締め切り　2012年11月2日）
●申し込み方法
①インターネットでの申し込み（当会HPのトップページにもリンクあり） http://www.e-casio.co.jp/jac/
②FAXでの申し込み　FAX　03-6362-4311
③eメールでの申し込み　jac@e-casio.co.jp
＊申し込み後、カシオマーケティングアドバンス株式会社から3営業日前後で受領の連絡があります（インターネットの場合即日）。受領の連絡がない場合申し込みは完了しておりませんので、再度申し込みください。
●申し込み記載事項
FAX、eメールで申し込む際は、下記必要事項を記載ください。
「日本山岳会　腕時計（プロトレック）申し込み」と明記し、①日本山岳会 会員番号　②名前　③届け先住所（国内のみ）　④電話番号　⑤会員番号刻印　要／不要　⑥数量
●送金方法　ゆうちょ銀行ほか（申し込み受領連絡時に記載）
●商品の発送　2013年5月中旬以降順次発送（当会特別仕様のため、期間を要します）
・申込者と送金時の振替（振込）名義人名は同じにしてください。
・複数購入の場合も1カ所への発送となります。
・支払い後のキャンセルはできかねます。
●商品・申し込み方法の問い合せ
カシオマーケティングアドバンス株式会社　担当：迫（さこ）、中村
電話　03-6362-4303／FAX　03-6362-4311／eメール：jac@e-casio.co.jp
（受付時間：9：30～17：00　土日祝日を除く）

電波受信機能（国内・北米・欧州・中国地域）
ソーラー充電システム搭載
10気圧防水
方位計測（磁気偏角補正）
高度計測（－700～10,000m）
気圧計測（260～1,100hPa）
温度計測（－10～60℃）
耐低温仕様（－10℃）
フルオートLEDライト
色：ブラック
サイズ：H56.8×W49.3×D14.2mm
重さ：79.6g
ベルト装着サイズ：14.5～21.5cm

サロンルーム

小倉サロン

◇10月サロン　31日（水）　18時30分から
◇11月サロン　28日（水）　18時から
北九州支部思い出の山行ビデオ
「12人の挑戦者たち・金峰山と瑞牆山」
◇12月サロン　忘年の集いのためお休み
◇1月サロン　23日（水）　18時から
DVD「女が山に登るとき、花への想いを馳せて」
元日本山岳会　名誉会員　　坂倉登喜子
場所：小倉北区魚町「コール天」
参加申込み：山田武史（TEL：090-6422-5662）

博多サロン

◇11月サロン　1日（木）　18時30分から
場所：博多区吉塚本町13-15　居酒屋「呑多来」
参加申込み：小林富雄（TEL:092-681-4673）

編集後記

○支部報がカラーで見られます

「日本山岳会のホームページを開いて、北九州支部欄を見て下さい。わが北九州支部報がカラーで、さらにバックナンバーも見ることができます」
○支部報編集に取りかかると、パソコンに張り付きで、山が遠くなります。62号は、８月の月例山行がないのと、中止になった山行もあり、個人山行の特集を掲載しました。いろいろな山行があったと思います。山の原稿のほか俳句、詩、短歌、エッセイなどもお寄せください。
○原稿は、事務局長山田武史または竹本正幸へ。メールまたはFAXでお願いします。
Eメール（写真を含む）は、竹本宛て
アドレス：takemoto.masayuki@white.plala.or.jp
（63号原稿は12月25日までお願いします）